

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2014.6.25

No.427



平成 26 年夏のボーナス調査

—レポートの概要—

- 平成 26 年夏のボーナス受給見込額は、平均で昨年夏を 4 千円上回る 34 万 7 千円となった。一方、ボーナスの希望額は平均で 47 万 7 千円となり、受給見込額との間に 13 万円の開きがみられた。なお、今夏のボーナスの伸び(見込み)は、昨年夏に比べ、「良くなる」が増加、「悪くなる」が減少し、期待指数は 7.7 ポイント上昇の 49.8 となった。
- ボーナスの使途計画は、「消費」割合が 40.0%、「貯蓄」割合が 43.7%、「返済」割合が 16.3%となった。昨年夏に比べ「消費」割合が増加し、「貯蓄」、「返済」割合は減少したが、それぞれ小幅な変動にとどまった。
「貯蓄」の目的をみると、昨年夏同様上位 3 位は「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」、「老後の備え」、「教育」の順となった。今回は「安心だから」の割合が減少し、目的を持った貯蓄へのシフトがみられた。
- 最近の暮らし向き調査では、25 年冬に比べ「良くなった」とする割合が 0.2 ポイント増加し、「悪くなった」とする割合は 1.4 ポイント減少した。この結果、暮らし向き指数は 0.8 ポイント上昇し 42.8 となった。

平成 26 年夏のボーナス調査

(1) ボーナス受給見込額

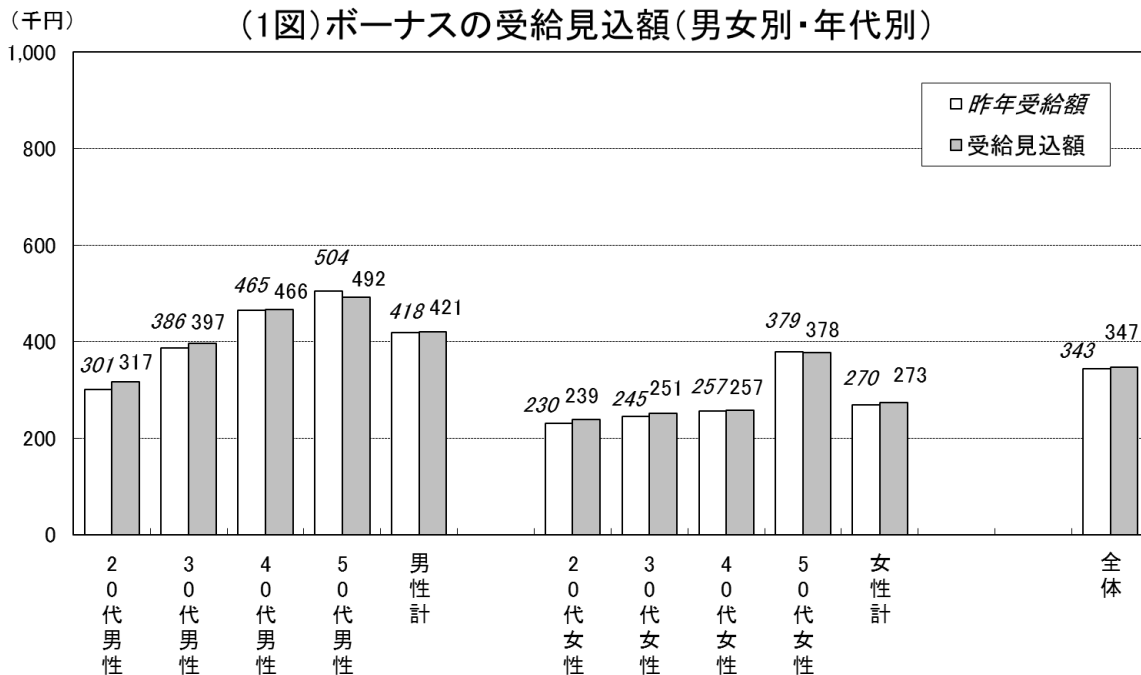
——平均 34 万 7 千円、昨年夏の実績を 4 千円上回る——

県内給与所得者が予想する今夏のボーナス受給見込額は、全体の平均で 34 万 7 千円となり、回答者の昨年夏の受給実績(平均 34 万 3 千円)に比べ 1.2%、4 千円上回った。これを男女別・年代別にみると、最も見込額が多かったのは 50 代男性の 49 万 2 千円で、次いで 40 代男性の 46 万 6 千円、30 代男性の 39 万 7 千円、50 代女性の 37 万 8 千円などの順となった。

男女別の平均受給見込額を比較すると、男性が 42 万 1 千円、女性は 27 万 3 千円と、男性が女性を 14 万 8 千円上回った。

年代別に今夏の受給見込額と昨年夏の受給実績との開きをみると、50 代男女で見込額が受給実績を下回り、40 代女性で横ばいとなったものの、他の年代は上回る見込みとなっている。その差額をみると、20 代男性(1 万 6 千円上回る)、30 代男性(1 万 1 千円上回る)、50 代男性(1 万 2 千円下回る)がやや目立ったものの、全体に小幅な開きとなり、その他の年代は 1 万円以内にとどまった。

(以上、1 図参照)

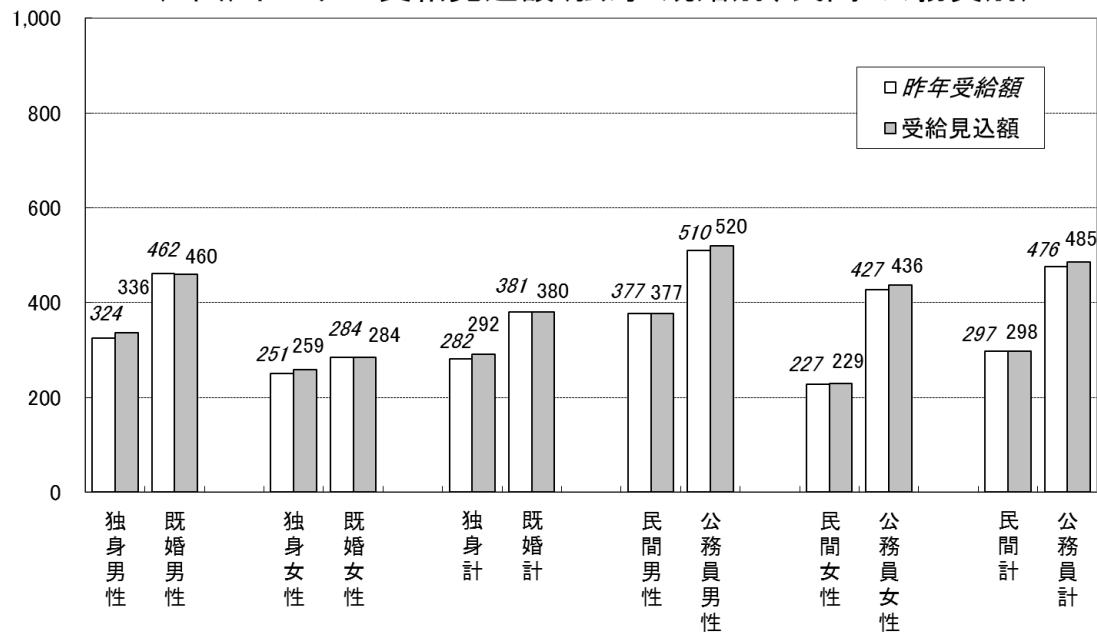


※20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む

次に、平均受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が 29 万 2 千円、既婚者が 38 万円となった。昨年夏の受給実績と比べると、独身者が 1 万円上回り、既婚者は 1 千円下回ると見込んでいる。独身者は男性の見込額が受給実績を 1 万 2 千円上回り、女性は 8 千円上回った。一方、既婚者は男性が 2 千円上回り、女性は横ばいとなった。

また、民間・公務員別でみると、民間が 29 万 8 千円、公務員が 48 万 5 千円となった。昨年夏の受給実績と比べると民間が 1 千円、公務員が 9 千円それぞれ上回ると見込んでいる。男性は民間が横ばい、公務員は 1 万円上回った。一方、女性は民間が 2 千円、公務員が 9 千円それぞれ上回った。
(以上、2 図参照)

(千円) (2図)ボーナス受給見込額(独身・既婚別、民間・公務員別)



(2) ボーナスの希望額

——ボーナス希望額、平均 47 万 7 千円——

今夏のボーナス希望額は全体の平均で 47 万 7 千円となり、受給見込額 34 万 7 千円と 13 万円の開きがみられた。

平均希望額を男女別・年代別にみると、男性が 57 万 6 千円、女性は 37 万 9 千円となった。最も多かったのは 50 代男性の 65 万 7 千円で、次いで 40 代男性の 64 万 2 千円、30 代男性の 55 万 2 千円、50 代女性の 50 万 9 千円などの順となった。

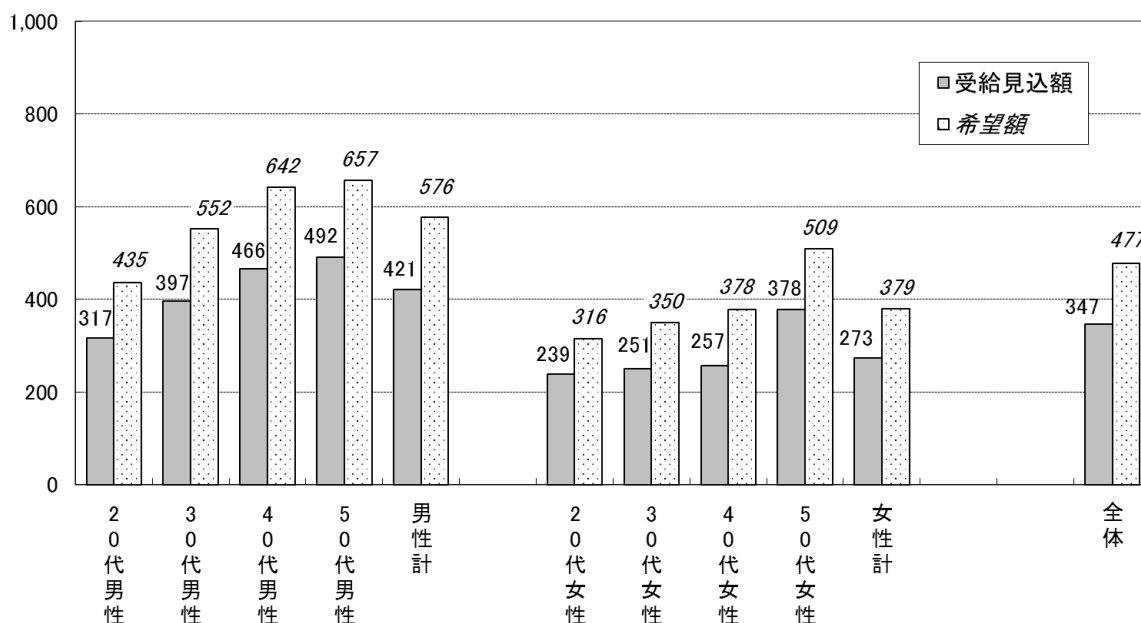
希望額と受給見込額との開きを男女別にみると、男性が 15 万 5 千円、女性は 10 万

6 千円となった。年代別にみると、40 代男性が 17 万 6 千円で最も大きく、次いで 50 代男性の 16 万 5 千円、30 代男性の 15 万 5 千円などとなった。また、独身・既婚別にみると、男女とも既婚者は独身者よりも開きが大きく、既婚男性は 16 万 6 千円となった。民間・公務員別では公務員男性の 16 万 1 千円、民間男性の 15 万 3 千円が目立った。

(以上、3、4 図参照)

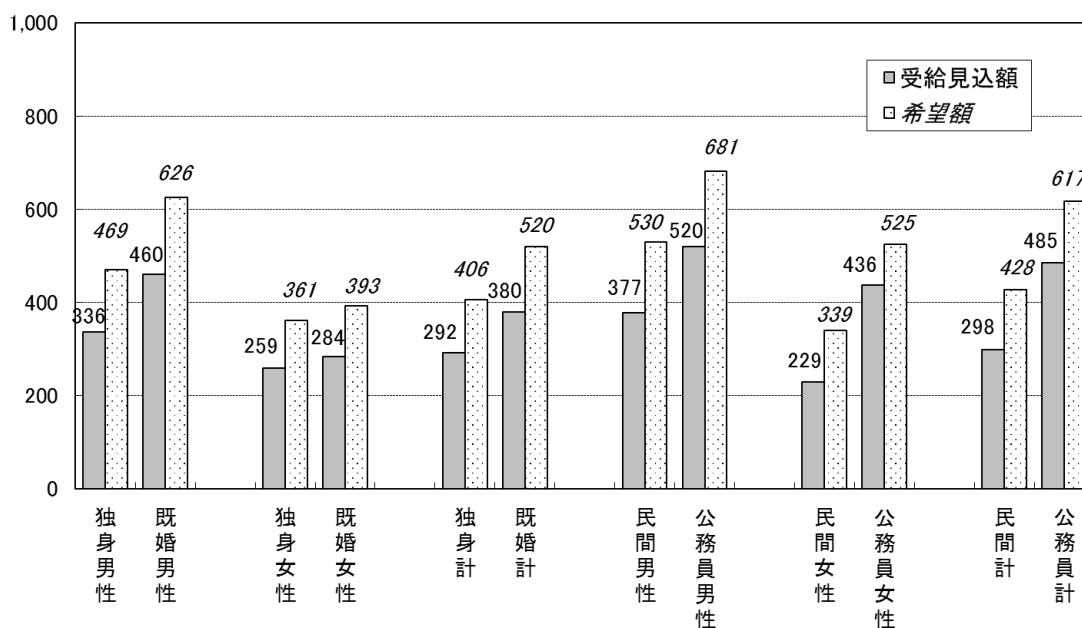
(千円)

(3図)ボーナス希望額(男女別・年代別)



(千円)

(4図)ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)



(3) ボーナスの伸びについて

——期待指数、昨年夏比 7.7 ポイント上昇、期待感が広がる——

今夏のボーナスの伸びは昨年夏に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」と

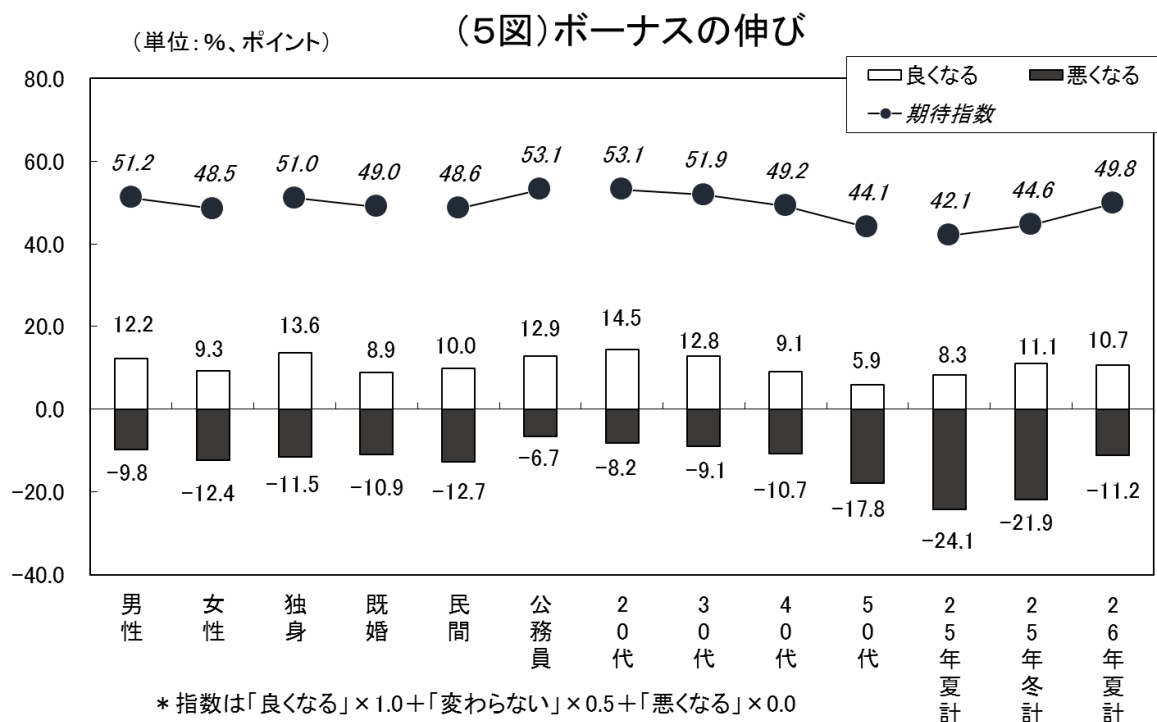
の回答は全体の 10.7%、「悪くなる」が 11.2%、「変わらない」が 78.1%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5図、注記参照)は 49.8 となった。

「変わらない」とする割合が大勢を占める中、昨年夏に比べると「良くなる」が2.4ポイント増加、「悪くなる」は12.9ポイント減少し、期待指数は7.7ポイント上昇した。

属性別にみると、20代は「良くなる」とする回答が14.5%と、「悪くなる」の8.2%を上回り、期待指数は53.1となった。このほか、

男性、独身、公務員、30代で「良くなる」割合が「悪くなる」を上回った。全体的にボーナスの伸びに関しては「悪くなる」とする割合が減少傾向にあり、受給額増加への期待感が広がっている状況がうかがわれた。

(以上、5図参照)



(4) ボーナスの使途計画

——「消費」、「貯蓄」、「返済」とも小幅な動きにとどまる——

この夏のボーナスの使途計画は、「消費」割合が40.0%、「貯蓄」割合が43.7%、「返済」割合が16.3%となった。昨年夏に比べると、「消費」割合が0.8ポイント増加、「貯蓄」割合は0.6ポイント減少、「返済」割合は0.2ポイント減少となり、それぞれ小幅な動きにとどまった。

男女別にみると、男性は「返済」割合、女性は「貯蓄」割合が高かった。独身・既婚別では、独身者は「消費」、「貯蓄」割合が高く、既婚者は「返済」割合が高かった。民間・公務員別では民間が「消費」、「貯蓄」割合、公務員は「返済」割合が幾分高かった。

(以上、1表参照)

(1表)ボーナスの使途計画

(単位:%)

	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
	買 物	レジャー	交際費	その他	自動車		住 宅	その他		
男 性	39.5	16.9	7.9	5.5	9.2	41.2	19.3	4.5	8.9	5.9
女 性	40.5	16.7	9.2	5.3	9.3	46.0	13.5	4.0	4.3	5.2
独 身 者	42.7	17.9	8.8	7.2	8.8	46.0	11.3	4.4	1.3	5.6
既 婚 者	38.4	16.1	8.5	4.3	9.5	42.2	19.4	4.2	9.7	5.5
民 間	40.3	17.7	8.6	5.3	8.7	44.0	15.7	4.6	6.1	5.0
公 務 員	39.2	14.3	8.6	5.7	10.6	42.7	18.1	3.2	7.7	7.2
26年夏計	40.0	16.8	8.6	5.4	9.2	43.7	16.3	4.2	6.5	5.6
25年夏計	39.2	17.2	8.5	5.4	8.1	44.3	16.5	4.9	7.3	4.3
24年夏計	41.3	16.3	8.2	6.0	10.8	42.2	16.5	3.9	7.0	5.6

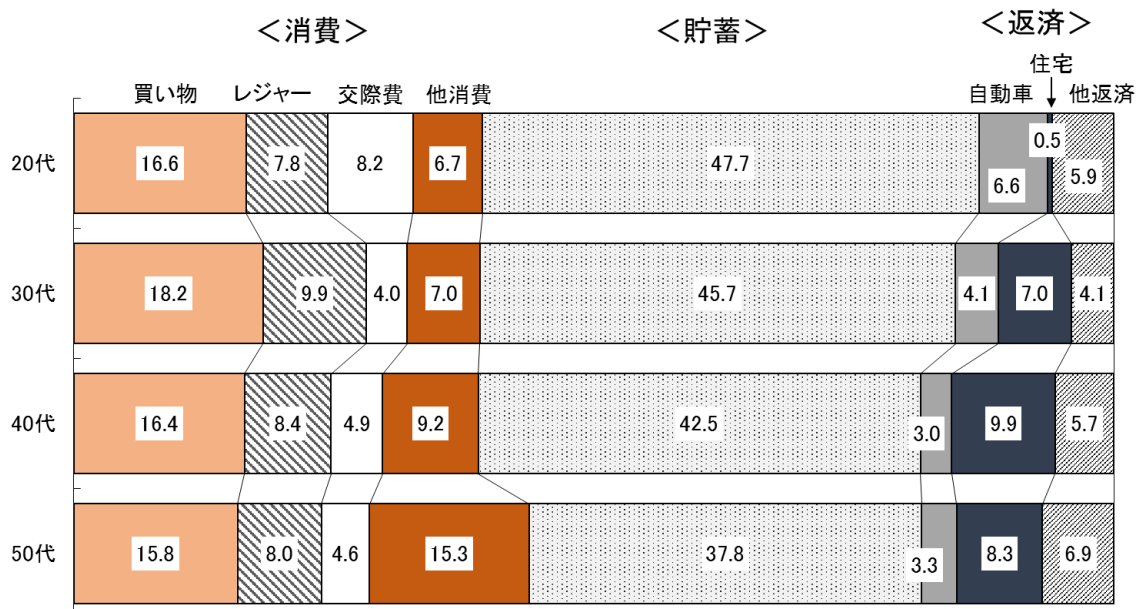
年代別にみると、「消費」割合は50代が43.7%で最も高く、その他の年代は39%前後と、幾分開きがみられた。「貯蓄」割合は20代が47.7%と最も高く、年代が進むにつれて低い割合となった。「返済」割合は40代が18.6%、50代が8.5%と中高年齢層で

高い割合を示した。内訳をみると、20代では自動車ローンの割合が高いのに対し、40代、50代では住宅ローンのウェイトが大きく、使途計画全体の1割近くを占めている。

(以上、6図参照)

(6図)年代別ボーナスの使途計画

(単位:%)



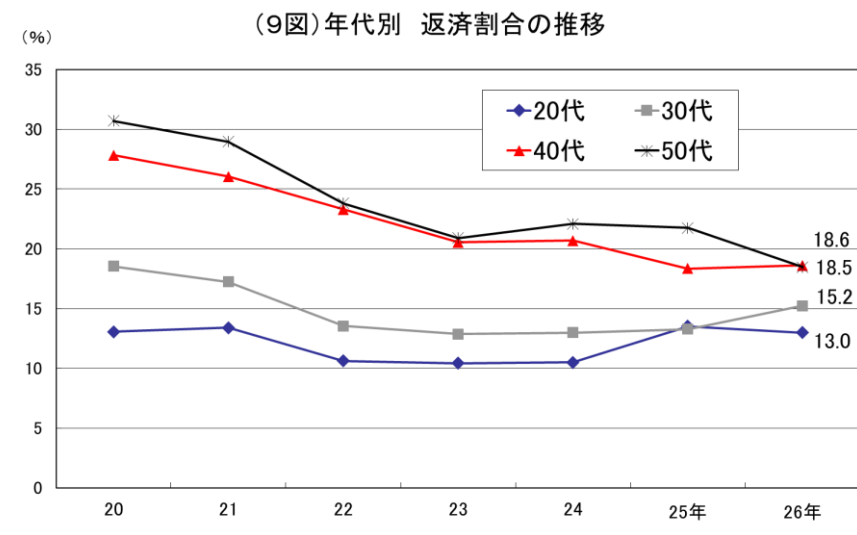
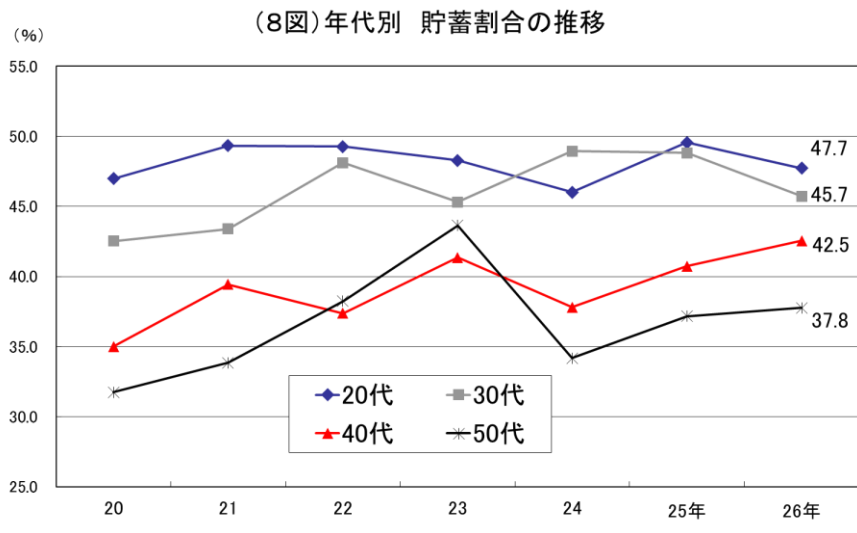
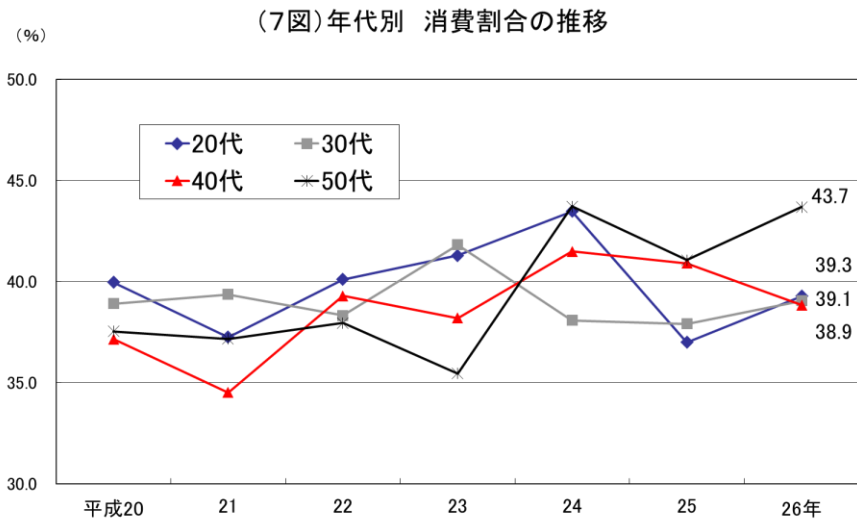
夏のボーナスの使途計画についてそれぞれの割合の推移を年代別にみると、平成26年の「消費」割合は前年に比べ40代が減少したものの、20代、30代、50代で増加

した。今回調査では50代が前年比2.6ポイント増加し、24年夏と同水準の43.7%となった。

「貯蓄」割合をみると、前年に比べ40代、

50代が増加したものの、20代は1.8ポイント、30代は3.1ポイントそれぞれ減少した。
「返済」割合は50代が前年比3.3ポイント

減少、20代は1.9ポイント増加し、30代、40代では大きな変化はみられなかった。
(以上、7、8、9図参照)



(5) 貯蓄の目的

——「貯蓄していれば安心だから」、「老後の備え」、「教育」が上位3位——

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が39.8%で最も高く、以下「老後の備え」が35.6%、「教育」が31.7%などと続いた。昨年夏と同様、この3項目が上位3位を占め、順位も同じであったが、「安心だから」が昨年夏に比べ7.0ポイント減少する一方、「老後の備え」は6.1ポイント、「教育」は2.7ポイントそれぞれ増加した。この結果からは、目的を持った貯蓄へのシフトがみられ、貯蓄への意識の変化がうかがわれる。

男女別にみると、男性は「教育」の割合が

「老後の備え」を上回った。また、「住宅」、「耐久消費財」の割合が高く、「旅行」、「病気の備え」は比較的低かった。一方、女性は「老後の備え」、「旅行」の割合が比較的高かった。独身・既婚別では、独身者は「安心だから」の割合が約5割を占めたほか、「老後の備え」、「旅行」が同率で2位となった。一方、既婚者は「教育」の割合が4割を超え1位となったほか、「老後の備え」、「住宅」の割合が高かった。

(以上、2表参照)

(2表)貯蓄の目的(複数回答)

(単位:%)

	男	性女	性	独	身	既	婚	26年夏計	25年夏計	24年夏計
住 宅	17.6	12.5		6.4		19.8		14.8	12.5	14.3
教 育	(2) 33.1	(3) 30.5		7.5	(1)	45.9	(3)	31.7	(3) 29.0	(3) 28.7
結 婚	10.9	8.7	(3)	22.5		2.2		9.7	7.8	8.0
旅 行	18.2	25.4	(2)	28.1		18.7		22.2	25.1	21.4
耐久性消費財	13.7	9.2		9.0		12.5		11.2	10.6	13.7
病気の備え	11.9	13.7		13.5		12.5		12.9	10.6	11.8
老後の備え	(3) 32.8	(2) 37.9	(2)	28.1	(2)	40.0	(2)	35.6	(2) 29.5	(2) 30.4
安心だから	(1) 41.3	(1) 38.4	(1)	52.8	(3)	32.1	(1)	39.8	(1) 46.8	(1) 42.0

2. 最近の暮らし向き調査

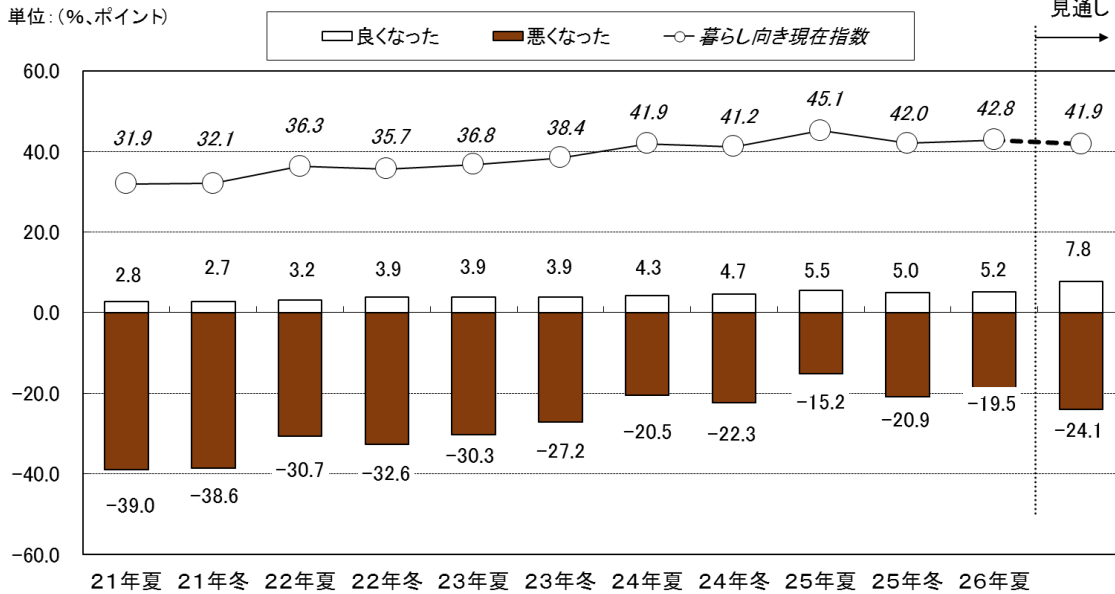
——暮らし向き指数、昨年冬に比べ0.8ポイント上昇——

まず、「今年の今頃に比べ、最近の暮らし向きはいかがですか」と尋ねたところ、「良くなった」が5.2%、「変わらない」が75.3%、「悪くなった」が19.5%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は25年冬に比べ0.8ポイント上昇し42.8となった。「良くなった」とする割合が0.2ポイント増加、「悪くなった」とする割合は1.4

ポイント減少し、「変わらない」とする割合は1.2ポイント増加した。

暮らし向き指数は5期(半期毎)連続で40.0を超えた。「良くなった」の割合は5%前後にとどまっているものの、「悪くなった」の割合が減少傾向にあり、暮らし向きの悪化に底打ち感がみられる。

(10図)暮らし向き指数の推移



属性別にみると、「良くなった」とする割合は独身が7.5%、20代が8.2%、30代が7.5%と若年層で比較的高い割合となった。一方、「悪くなった」とする割合は、20代が11.9%にとどまったものの、年代が進むにつれて高くなり50代では29.7%となった。

次に「1年後の暮らし向きはどうかと考えますか」との問いに対しては、「良くなる」が7.8%、「変わらない」が68.1%、「悪くなる」が24.1%となった。現在より「良くなる」は全

ての属性で増加がみられ、全体では現在より2.6ポイント増加する見通しとなっている。一方、「悪くなる」は全ての属性で増加し、全体では現在より4.6ポイント増加となり、増加幅は「良くなる」を上回った。この結果、「今後の暮らし向き指数」は「現在の暮らし向き指数」を0.9ポイント下回る41.9と、幾分低下する見通しとなっている。

(以上、10図、3表参照)

(3表)現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位：%)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	4.8	8.2	76.8	68.0	18.3	23.8	43.2	42.2
女性	5.6	7.4	73.8	68.2	20.6	24.3	42.5	41.5
独身	7.5	11.6	76.1	68.1	16.4	20.2	45.6	45.7
既婚	3.7	5.3	74.7	68.1	21.6	26.6	41.1	39.4
民間	5.9	8.2	72.8	66.9	21.3	24.9	42.3	41.7
公務員	3.0	6.5	82.7	71.9	14.3	21.6	44.4	42.4
20代	8.2	11.8	79.9	73.6	11.9	14.5	48.2	48.6
30代	7.5	9.8	77.2	68.5	15.4	21.7	46.1	44.1
40代	3.6	6.3	73.9	70.4	22.5	23.3	40.5	41.5
50代	1.0	2.6	69.2	58.5	29.7	39.0	35.6	31.8
全体	5.2	7.8	75.2	68.1	19.5	24.1	42.8	41.9

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

以上

【調査要領】

- 調査対象者 県内在住の男女給与所得者
- 調査時期 平成26年5月下旬～6月上旬
- 配布・回収枚数 配布枚数 1,000枚
回収枚数 924枚 (回収率 92.4%)

回答者内訳

(単位:人)

属性	男性	女性	合計
20代	99	121	220
30代	101	153	254
40代	132	122	254
50代	106	90	196
独身	137	224	361
既婚	301	262	563
民間企業	306	386	692
公務員	132	100	232
合計	438	486	924

注:20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む

※ 本件に関する照会先
一般財団法人 青森地域社会研究所
担当:野里和廣
TEL.017-777-1511